

糖度が高く、豊産性で栽培容易なニホンナシ新品種 「甘太」

ニホンナシは軟らかい肉質への強い消費者ニーズがありますが、「新高」等の主要な晩生のニホンナシ品種は、やや果肉が硬く食感が劣り、晩生で果肉の軟らかい品種が求められています。また、栽培性においては、省力型の安定多収品種が望まれています。そこで、「新高」より果肉が軟らかく、豊産性の晩生品種育成を目的としました。

☆技術の概要

1. 1998年に果樹研究所において、晩生で収量性が優れる「王秋」に、中晩生で食味が優れる「あきづき」を交雑し育成されました。
2. 樹勢は強く樹冠拡大が容易です。えき花芽や短果枝の着生はともに多く、花芽は容易に着生します。このため、若木時の収量が高く、栽培が容易です。開花中央日は「幸水」とほぼ同時期です。収穫中央日は10月上旬で、「新高」に近い時期です。
3. 果形は円～円楕円で、サビは果面全体に多く発生します(写真)。果実の大きさは570g程度と「新高」より小さいです。果肉硬度は4.4ポンドで、果肉は「新高」より軟らかく、糖度は15%程度で「新高」より高いです。pHが4.6程度で酸味をやや感じますが、食味濃厚です。心腐れ、みつ症などの生理障害はほとんど発生しません。
4. 黒斑病には抵抗性を示します。黒星病に対しては罹病性ですが、慣行防除で栽培可能です。S遺伝子型は S_3S_4 で、主要品種の中では「あきづき」と交雑不和合性、その他とは和合性を示すと考えられます。



☆活用面での留意点

1. 全国33場所で試作試験の結果、北東北では通常年は成熟困難との報告がみられます。それ以外の大部分の県では有望と評価されており、全国的に普及が見込まれます。
2. 多くの場所で果皮色の変化が少ないために収穫期の判定が難しいと評価されました。特性が十分発揮される収穫期について今後検討が必要です。
3. 3年間でのべ3カ所でコルク症状の報告がみられましたが、いずれも症状は軽微で、頻度も低かったです。
4. 2014年から苗木の販売が開始されました。
5. 詳細については、(独)農研機構果樹研究所(電話:029-838-6464)にお問合せください。

(果樹研究所カンキツ研究領域・上席研究員 齋藤寿広)